

## 「新型コロナウイルス第4派到来」

中川 良一

## ＜コロナ感染流行状況＞

ベトナムは、新型コロナウイルス感染対策で世界の優等生と評価され、これまで新型コロナウイルス感染封じ込めに成功してきましたが、5月に第4波が到来し、欧州、アフリカ、イギリス、インドで流行中の変異株を含む7種類の新型コロナウイルスが急激に猛威を振るっています。ベトナム政府は、水際対策として、外国人、ベトナム人を問わず、入国後の強制隔離をこれまでの14日間から21日間までと延長し、さらに、自宅で7日間の自主健康管理（実質的には隔離）を要求しています。

## ＜ベトナムのワクチン接種と優先順位＞

ベトナムは、イギリスのアストラゼネカ、ロシアの Sputnik、中国のシノファームの3種類のワクチンに対し輸入を許可しています。接種については優先グループを次の10グループに分け、全て無料で接種する予定です。

(1)感染予防従事者（医療従事員、各種対策委員会、隔離エリア(地域)のスタッフ、軍隊、公安) (2)海外へ派遣される公務従事者、外交官とその家族 (3)ベトナムにおける国連機関の外交代表団および組織 (4)税関職員、出入国管理官 (5)航空、輸送、観光、電力、水道等のサービス提供者 (6)教師、教育訓練機関の従事者、および多くの人と頻りに接触する行政機関職員 (7)慢性疾患のある人、65歳以上の人 (8)感染流行地域の住民 (9)低所得者、社会支措置受給者 (10)国家機関によって期限付きで海外へ出張、研修、就労に派遣される者。

今回、上記10グループに先駆け、ベトナムで最もコロナ感染者が多い、ベトナム北部のバクザン省とバクニン省内の労働者にワクチンを無料で接種しました。これらの省は、韓国サムスン電子や米国アップルの携帯電話の重要製造拠点となっています。



左の写真は、バクニン省、バクザン省の工業団地内企業において、労働者が工場内の宿泊施設に宿泊し、工場外部に一切出ないことを条件に、生産活動を続けることが許可されたため、工場内に設置された従業員用宿泊テントです。

接種を2回終えた人は31,551人で、主に感染

予防従事者である医療従事者や軍人です。ワクチン接種者は人口の0.03%にとどまっており、まだまだ接種率が少ないのが現状です。

ベトナムも、Nano Covax-Vaccine という名称のベトナム製コロナワクチンの研究を行っています。臨床試験を1回目2020年12月、2回目2021年2月、3回目2021年6月に実施し予防効果を確認、今後の正式な承認に期待が高まっています。

## ＜コロナ第4波拡大中での経済活動＞

コロナ感染拡大が非常に深刻な状況となったバクザン省では、ライチの収穫シーズンに入りました。ライチ

生産量は、全国の約80%を占め、2021年6月3日時点で、約31,366トン



を収穫し、そのうち2万トン以上が国内消費、1万トン以上が空路で日本と米国市場に輸出、また毎日約1千トンのライチが国境ゲートを通り中国へ輸出されています。ライチの国内販売は、電子商取引サイト運営企業およびデジタル経済局(商工省)がベトナムの6つの主要電子商取引サイト(Sendo、Voso (Viettel Post)、Tiki、Shopee、Postmart (VNPost) CucCu)と連携し、食品安全基準(ウイルスなどの付着がないことを含む)を達成できた場合に「ライチ安全証明書」を発行、収穫後6時間から48時間以内に全国の消費者に届けられます。

日越政府合意より、徐々に輸出品目が拡大し、日本からは和牛やリンゴ等ベトナムへ輸出が解禁され、ベトナムからは、日本の農林水産大臣が定める基準とベトナム産ティエウ種のライチ生果実に関する植物検疫実施細則に基づき生産されたティエウ種ライチに限り、日本への輸出が2019年12月15日から認められました。コロナ禍の昨年2020年5月、日本への生ライチ初輸出が開始、当時は大手スーパーでしか目にすることができませんでした。今後、輸出がさらに拡大し、毎年5~6月にはバクニン省の生ライチが、日本市場に広がるのが期待されています。